

令和4年度第2回千葉市まち・ひと・しごと創生会議 議事要旨

- 1 日 時 令和4年11月21日（月）13時30分～15時30分
- 2 場 所 千葉中央コミュニティセンター 10階 「101会議室」
- 3 参加者 <<委員>>13名
浅野 幸子委員、石河 勲委員、石丸 美奈委員、岩崎 久美子委員、菊地 端夫委員、
貞広 斎子委員、鈴木 雅之委員、高梨 園子委員、根本 美香委員、林 暁甫委員、
細田 美和子委員、松永 哲也委員、若狭 健委員（五十音順）
<<事務局>>6名
神崎 総合政策局長、堺 総合政策部長、濤岡 政策企画課長、佐藤 課長補佐、
平野 政策企画課主査、松崎 政策企画課主査

4 議 題

- (1) 千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略と総合計画の統合について
- (2) 第1次実施計画 事業（案）の概要等について
- (3) 第1次実施計画 基本目標、KPI（案）について
- (4) その他

5 議事概要

- (1) 千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略と総合計画の統合について
千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略と総合計画の統合について事務局より説明を行った。
- (2) 第1次実施計画 事業（案）の概要等について
第1次実施計画の事業（案）概要等について事務局より説明し、委員と意見交換を行った。
- (3) 第1次実施計画 基本目標、KPI（案）について
第1次実施計画の基本目標及びKPI（案）について事務局より説明し、意見交換を行った。
- (4) その他
第1次実施計画策定スケジュール等について事務局より説明を行った。

6 会議経過

～以下、議事要旨～

議題（1）千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略と総合計画の統合について

（事務局）千葉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略と総合計画の統合について、資料1を用いて説明を行った。

一同異議なし。

議題（２）第１次実施計画 事業（案）の概要等について

（事務局）第１次実施計画事業（案）の概要等について、資料２を用いて説明を行った。

<意見交換>

菊地委員	<p>資料２の３、４ページについて、今回の計画は、第３次まで策定される実施計画の最初の計画という位置付けになります。第１次実施計画の事業選定に当たっては、５つの戦略的視点が掲げられていますが、この戦略的視点は、選定した事業間の相乗効果など、横断的な視点であると理解しています。</p> <p>一方、基本計画の計画期間である１０年先を見越した最初の実施計画として捉えた場合には、違った意味での戦略性も考えられます。先ほどの事務局の説明の中で、既に顕在化している課題に対し、緊急性を持って取り組んでいくと説明がありましたが、現在は潜在化しているものの、将来顕在化することが見込まれる政策課題に対応するため、今から取り組んでいくべき事業もあると思います。あるいは、基本計画の目標を達成するために、次の第２次、第３次の実施計画で実施すべき政策の元となるものを、第１次実施計画から取り組んでいくという考え方もあります。</p> <p>このように、１０年間の見通しの中で第１次実施計画の位置付けを考えた際に、策定の視点に事業間の連携という水平的な視点に加え、時間軸という視点が計画策定の背景にあると、先を見据えた実施計画であるということが表現できると感じました。</p>
総合政策部長	<p>本日の説明資料では、基本計画の戦略的視点をそのまま引用しているように見えますと思いますが、第１次実施計画は基本計画と同時期に開始する計画ということもありますので、こちらの審議会でもご議論いただいた基本計画の戦略的視点をもって、実施計画の事業を検討してきたところです。</p> <p>また、基本計画の中で主な取組みを提示していますが、当然ながら庁内で将来の変化を見据えた中で、この１０年間で何をやるべきかという議論のもとに、現状で想定しうる取組みを位置付けております。その中で、さらにこの３年間で着手、あるいは実現可能な取組みを絞り込んで、第１次実施計画に位置付けておりますので、基本計画と同じようなものを掲載しているところです。また、事業効果の発現や、喫緊の課題解決、中長期的な課題対応の両面を見ながら、事業を選定しているところです。</p> <p>さらに、前回の千葉市新基本計画における実施計画においても同様でしたが、今後、第２次、第３次の実施計画を策定する際に、その時々々の社会状況に応じた新たな視点が出てくることは十分に考えられますので、しっかりと状況を見ながら、計画に反映させていきたいと考えております。</p>
総合政策局長	<p>補足させていただきます。最終的な計画書では、計画書の冒頭に「策定の趣旨」というものが入ります。前回の第３次実施計画においても、当該計画の位置付けや、どのような社会状況の中で事業を選定していくのかなどを記載しております。</p> <p>そのため、今回の第１次実施計画においても、策定の趣旨といった部分で菊地委員からご指摘いただいた部分をしっかりと反映してまいりたいと考えております。</p>
林委員	<p>前回の審議会千葉市を視察したいということをご提案させていただいたところ、鈴木部会長、若狭委員、岩崎委員と私の４名で色々と市内の施設等を回らせていただきまして、事務局の皆様には改めてお礼申し上げます。おかげさまで、今の千葉市の動きを現場で見る事ができて、よりクリアに本日の説明も聞くことができました。</p> <p>それを踏まえて、２点ほど質問させていただきます。比較的私の専門分野に近い「文化・芸術、スポーツ」の項目についてですが、３年間の第１次実施計画ということで、令和５</p>

	<p>年度から7年度までの具体的な事業が色々ございます。ハード整備から、ソフト事業がある中で、文化・芸術、スポーツの分野では「次世代を担うアーティストの育成支援」など、人材育成に関するものが多くあるかと思えます。</p> <p>当然、他の分野も同様かと思いますが、短期間で人を育てることは難しいと考えおりますので、この辺りについてどのようなイメージをお持ちか確認させてください。ハード整備をして、そこに若手のアーティストが色々使える環境を整えていくのか、ソフトの育成支援として、例えば、育成プログラムのようなことも検討されているのかなど、具体的な内容になってしまうかもしれませんが、人材育成には時間がかかるという中で、この3年間でイメージしていることがあればお伺いしたいです。</p> <p>もう1点はスポーツに関してですが、先日視察させてもらったときも、大変すばらしい施設が色々あり、資料2にあるように、具体的な催しや全国的な競技大会などをどんどん広めていくことができるだろうなと思いました。一方で、施設で海岸沿いを歩いた中で、日常的に居住者の運動を活性化させるような取組み、例えば、生活習慣病や、視察中に鈴木部会長から独居老人の問題などのお話を伺う中で、やはり孤独にならないような、ふらっと気軽に活動できて、一人ひとりの生活の質を豊かにしていくといった取組みもあるとよいと感じました。ハイクラス、トップクラスの視点だけではなく、日常に目を向けたものの方が周囲と関係性を築きやすく、着手しやすいと思います。</p>
鈴木部会長	<p>私からも関連して質問ですが、実施計画事業案は最終的にどのような形でアウトプットされるのでしょうか。次の議題である基本目標・KPIや計画事業案に対して、我々委員はどのような視点で見なければよいのか、共通認識のためご回答いただければと思います。</p>
政策企画課長	<p>まず、鈴木部会長からいただいたご質問からお答えさせていただきます。</p> <p>先ほどの菊地委員のご発言にも関係いたしますが、実施計画は基本計画の実現に向けた具体的な事業を盛り込む計画になっております。実施計画に記載する内容は、事業概要と、目標を管理するための指標で、具体的には、計画開始前である現状の数値と、最終年次である令和7年度における定量的な目標を設定し、管理していくという考えの下で作成する予定であります。</p> <p>次に林委員からいただいた文化芸術・スポーツに関するご質問ですが、ご意見のとおり、人材育成は一朝一夕ではいかないことをこちらとしても認識しております。具体的に裾野を広げていく取組みとしましては、アーティストの方に地域で活動していただき、地域の方々それぞれがそれに接することによって、地域に文化が根付いていくというような取組みや、学校に訪問していただくような取組みを想定しているところです。加えて、大きい取組みとして、昨年度のオリンピック・パラリンピックに併せて実施しましたが、参加するタイプの芸術祭の開催を検討してまいりたいと考えております。このような取組みによって、文化芸術が地域に根付いていくのではないかと考えております。</p> <p>2つ目のスポーツに関しましては、健康づくりの面からも重要なものだというふうに考えております。イベントを各地で行っておりますが、中々定着しないこともありますので、健康づくりも含めて色々なところでイベントの周知を図り、多くの方に参加してもらい、継続してもらえようような取組みにしていきたいと考えております。資料に記載している取組みでは、プロやトップアスリートのものになりますが、市民の方にも参加してもらいよう取組みを進めていきたいと考えております。</p>
鈴木部会長	<p>先ほどの林委員のご意見の趣旨には、3年間では無理ではないかというものもあったと思いますが、第2次実施計画を策定する際には、第1次実施計画の成果をしっかりと検証</p>

	<p>し、取組みを続けていくかを含めて検討していくものと感じました。それは、先ほど菊地委員からあった、10年間における進め方に関する1つの考え方になるかと思います。</p>
岩崎委員	<p>私も視察に参加させていただき、千葉市の貴重な地域資源を直に知ることができて、本当にありがたく思いました。今回の審議会において意見を述べるにあたって、基本的認識を得ることができたと感じています。</p> <p>さて、資料2について分からない用語がいくつかあります。例えば、ウォークブル推進、リノベーションまちづくり、Ma a SやM I C Eといった言葉を存じ上げませんでした。調べたところ、国土交通省を中心とした非常に最先端な言葉だと分かりましたので、千葉市が先駆的な取組みをされるという意気込みを感じると同時に、私のように意味を知らない方もいるかと思いますので、用語の説明を記載していただけるとありがたく思います。</p> <p>次に、菊地委員のご意見と重複するかもしれませんが、資料2を拝見したときに最初に疑問に思ったことは、事業選定における戦略的視点とまちづくりの総合8分野、そして368にわたる事業、この3つの関係性です。この重視すべき5つの戦略的視点は事業選定の根拠として書かれていますので、368事業を選定する基本的な視点であると理解していますが、その認識で正しいでしょうか。</p> <p>正しいとした場合、368事業が一对一の関係ではなく、1つの事業に対して5つの戦略的視点が複数該当する可能性があるかと想定されます。それぞれの事業がどの視点をもって選定したのかが分かる資料があると、事業が選定された理由等について理解が深まりますので、その辺りを教えていただければと思います。</p>
政策企画課長	<p>視察につきましては、実際に現場を見ていただくことでイメージが湧く部分があると思いますので、我々としても大変有意義な視察であったと感謝しているところです。</p> <p>次に難しい用語について、Ma a sやM I C Eなど、確かに先駆的な取組みを導入するという意味で用いておりましたが、ご指摘のとおり市民にとってはとっては分かりにくい部分もありますので、計画書を作成する際には、注釈として説明を記載し、市民の方に分かりやすい形で提示したいと考えております。</p> <p>続いて、5つの戦略的視点と事業選定の考え方ですが、基本的な考え方としては、5つの戦略的視点に基づいて事業を選定しております。ただし、こちらの計画が総合計画という性格上、必ずしもこちらの考え方に紐づかない取組みも現実問題としてございます。当然、内部ではどの事業がどの戦略的視点に対応しているのか整理をしておりますので、こちらについては、今後、皆様に提示していきたいと考えております。</p>
鈴木部会長	<p>ただいまの回答について、公開される計画書に用語解説は当然必要ですが、この審議会においても必要かと思います。最終的には公開していくものであり、二度手間にならないと思いますので、ご準備をお願いいたします。</p> <p>また、基本計画がこの場に資料としてあってもよいと思います。私も昨年度の審議会でも基本計画の策定に携わっておりますが、完成した基本計画を拝見した記憶がありませんが、それがあると、基本計画と実施計画の関係性や各分野の位置付けなどが分かりやすくなるのではないかと感じます。ペーパーレスの時代ですので毎回は難しいと思いますが、工夫していただければと思います。</p>
<p>議題（3）第1次実施計画 基本目標、KPI（案）について</p> <p>（事務局）第1次実施計画事業 基本目標、KPI（案）について、資料3-1、3-2を用いて、説明を行った。</p>	
<p><意見交換></p>	

松永委員	<p>脱炭素化の関係について、千葉銀行においてサステナブルファイナンスに取り組んでおりますので、そこから得られた経験を踏まえて発言させていただきます。</p> <p>国の、「2030年の温室効果ガスを2013年度比で46%減らす」という目標はとても高く設定されており、実現するためには、年率で2.7%ずつ温室効果ガスを減らしていく必要があります。この2.7%は相当大変な数値であり、照明のLED化やEV車の導入だけでは達成できない、野心的な数字になっています。</p> <p>千葉市でも2050年までのカーボンニュートラルを目指しており、国の2030年の目標と整合性が取れるような形でマイルストーンを設定していると思いますが、実施計画のKPIは、そこの整合性が図られているのかを確認させてください。</p> <p>また、やはり年率2.7%減らすことは大変ですので、相当の覚悟を持って取り組まないと実現は難しいということ、感想として申し上げます。</p>
政策企画課長	<p>難しい目標であることは我々も認識しております。現在、2050年カーボンニュートラルに向けた取組みとして温暖化対策実行計画というものを策定しておりますので、そちらと整合をとるような形で実施計画のKPIを設定しております。</p> <p>カーボンニュートラルの達成が難しいというご発言について、今後、技術の進歩や法的な規制の検討などがあると思いますが、今回の実施計画の中では、例えば企業向けの施策として、ファンドの設立など民間事業者の投資を促すような取組みがございます。これらの取組みを進めるとともに、千葉市のインフラ整備における脱炭素化などを進めながら、目標達成に向けて取り組んでまいりたいと考えております。</p>
石丸委員	<p>私からは2点あります。</p> <p>1点目は、「子ども・教育」分野について、先ほどの資料2において「新児童相談所の整備」という事業がありましたが、こちらに関するKPIが設定されておられませんので、この点はいかがなものかと思えます。児童相談所が整備されますと、そこに専門職を配置する必要がありますし、複雑なケースでは他の部署との調整・連携が必要となると思えます。そのため、相談機能の充実、もしくは支援ネットワーク体制の整備といったものを評価すべきかと思えますが、その点に関する見解をお聞かせください。</p> <p>2点目は、施策3-3-3と4-1-5に「療育相談所における相談件数」という指標があり、発達障害への支援という事業の成果を測るうえで、このようなKPIはよいと思いました。しかし、実績値と目標値が同じであり、その理由が「再診数の増加や常勤医師が確保できない」となっております。資源が限られているから難しいという思いが見えますが、今後も相談件数は増えていくと思っておりますので、市民が安全・安心に暮らしていくという意味でも、目標値は高く設定できるとよいと思いました。</p> <p>関連して、「総合窓口での相談受付件数」というKPIがあります。このようなワンストップで受け付ける窓口を開設することはとても良いと思えますが、相談内容によって、より専門的な相談窓口に繋げていくかと思えます。この2次的な相談先の1つとして療育相談所があると思っておりますので、総合窓口で相談を受け付けたは良いが、次の専門相談で相談待ちとなる可能性もあると思っておりますので、その辺りに関する考え方を確認させてください。</p>
政策企画課長	<p>まず、児童相談所に関するご質問については、なかなか良い指標の設定が難しいのが本音でございます。例えば、一時保護などの体制に関する指標を設定することも考えられますが、基本的には、体制を整備したうえで、児童虐待の防止につながる指標をできる限り設定したいという考えておりますので、適切な指標の設定が難しいという状況です。</p> <p>現時点では対応する施策のKPIとして、里親の登録数を設定し、児童の家庭に何か問</p>

	<p>題があるときに、受け入れてくれる体制の充実として、この人数で測ることを意図して、設定しているところです。児童虐待の相談件数に関する指標について、件数が増えることが望ましいのかという部分があり、評価が難しいところですので、現状では里親の登録数を設定しております。ただし、ご意見のとおり体制の整備というところでも検討の余地はあると思いますので、所管課と調整をしてみたいと思います。</p> <p>2点目の療育相談につきましては、ご指摘のとおり制約条件を理由に、現実的な数字を目標値として設定しているものですが、制約条件である課題を解決して、相談体制を充実させていくことが本来の考え方であると思います。発達障害への支援の推進を計画案に盛り込んでおりますので、相談体制の整備について目標値の見直しができないか、所管課と調整をしてみたいと思います。</p>
石河委員	<p>質問と意見をいくつか述べさせていただきます。</p> <p>1点目は、施策1-2-1の「動物園の入園者数」について、大部分の指標では現状値を改善した目標値を設定していますが、こちらの指標は入園者数が少なくなっています。そのため、今後の動物園の運営をどのようにしていく考えなのか、お聞かせください。</p> <p>2点目は、施策2-3-1の「人口1万人当たりの建物火災出火件数」について、「件数」という指標にもかかわらず単位が%であり、指標の値も%で記載されておりますので、指標名と指標の値について整合を図っていただくようお願いします。</p> <p>3点目ですが、施策4-1-2の子ども・子育てについて、「保育所の待機児童数」とありますが、千葉市ではここ数年待機児童数ゼロを達成していると思います。今後、少子化が進行し、生まれるお子さんの人数も減っていくことが想定されますので、現在の保育所の数を維持すれば、自ずと目標である待機児童数ゼロを達成するということとなります。千葉市でも保育所の入所を申し込む際は、第1希望など希望を取っていると思いますが、第1希望の保育所に入所できる割合はあまり高くないと思われます。</p> <p>入所できたとしても、預け先が遠方の場合、通勤時間が1.5倍、2倍と長くなってしまいうこともありえますので、市民の利便性を考えると、やはり自宅や職場に近い希望の保育所に入所できるようにしてほしいと思います。そのため、現状のままでも達成が見込める指標ではなく、第1希望の保育所に入所できる割合といった指標を設定することも考えられるのではないのでしょうか。</p> <p>最後に、施策の7-2の基本目標で「公共交通機関の乗車数」とありますが、コロナ禍で公共交通機関を利用する方が減ってきており、代わりに密を避けるためにマイカーで通勤するという傾向が、私どもの調査で分かっています。加えて、テレワークなど出勤しない働き方も増えておりますので、このような社会状況の中、公共交通機関の乗車数をKPIとして設定することに意味があるのでしょうか。本来は、多くの人が公共交通機関を利用することで、千葉市が活性化するという意味での指標かと思いますが、現状を踏まえると、少しずれているのではないかと感じました。</p>
政策企画課長	<p>まず、動物公園に関して、千葉市では動物公園のリスタート構想というものを策定しており、こちらと整合をとった指標になっております。こちらの構想では、新たな投資の効果によって増加した入園者が、投資効果が薄れると減少するというのを繰り返しながら、徐々に入園者数が増加することを見込んでおりますが、目標年度である令和7年度がちょうど谷間の時期にあたりますので、現状値よりも低い目標値となっております。今後、例えば水辺のゾーンの整備などに取り組んでまいりますので、それらの効果により増加に転じる前の一時的な減少ということをご理解いただければと思います。</p>

	<p>次の建物火災については、件数とパーセンテージのどちらかを確認し、整合を図ります。</p> <p>3点目の待機児童数の関係ですが、こちらも所管課と指標の設定について調整していく中で議論がありましたが、やはり待機児童数ゼロを続けていくことが重要であるということで、設定しているところです。ただし、待機児童数は全国的に以前よりも改善している傾向にありますので、委員からご提案のとおり、第1希望の入所者割合など、よりよい保育所サービスという視点で適当な指標がないか、検討したいと思います。ちなみに、こちらの待機児童数は、入所申込をした方のうち、最終的に入所できなかった方の人数になりますので、委員からご発言があったように入所を諦めてしまう方もおります。希望の保育園に入所待ちの方も現在で500人程度おりますので、こういった部分も含めて、指標を検討したいと考えております。</p> <p>最後に公共交通機関の乗車数について、確かに公共交通からマイカーに移っている傾向がありますが、できる限り公共交通を利用するよう誘導し、環境負荷の低減や効率的なまちとしていくことを目標としております。今後の人口減少を考えると、マイカーに頼ると市民の居住地が市内に点在し、効率的なまちでなくなりますので、こちらの指標につきましては、このまま設定させていただきたいと考えております。</p>
石河委員	<p>承知しました。動物公園の入場者数については、公表した際に、私と同じことを感じる方もいるかと思っておりますので、補足説明を記載した方が良いと思います。</p>
貞広委員	<p>政策分野によってはK P I の設定は難しいことに加え、無理矢理不適切な指標を設定したために、不適切な指標の達成が目的化してしまう事例が散見されます。そのため、指標を慎重に設定することはもちろんですが、検証の場面においても、指標至上主義にならないことが大事だと思います。</p> <p>その上で、専門である分野4の教育について、2点意見を申し上げます。</p> <p>1点目は、事務局からの説明にてK P I は投入量ではなく、投入したことによる効果を測る指標とのことでしたが、投入量の最たる例は事業になると思います。そのように考えたときに、事業とK P I が論理的に整合しているということが大変重要であると思います。その視点から分野4を拝見したときに、例えば、資料2にあるICT教育の推進や夜間中学の運営は千葉市にとって目玉となる事業だと思いますが、このあたりの事業がK P I に反映されていません。確かに、ICT教育に力を入れれば学力が上がるといった関係ではありませんが、重点的に取り組む事業に関する指標が設定をされていないことは、考えていただきたいと思います。ギガタブが導入されてるかどうかではなく、実際に授業の中でどの程度有効に活用されているかなど、頻度と効果が見ることができると思います。</p> <p>2点目ですが、指標の設定にあたっては、千葉市として到達したい未来像を設定することが重要で、他律的ではなく、自律的な指標を設定すべきだと思います。そのような視点でK P I を見ますと、他の自治体よりも低い数値を上げていく、学力テストの平均値を同じレベルにしていくといった他律的な指標が散見され、自分たちで数値を設定しないのかと思います。特に学力に関しては、テストスコアで測定される平均値の世界に意味はなく、分布に意味があると何度も教育委員会に申し上げます。例えば、平均点が60点から70点に上がったとしても、一方で学力が低位の方がたくさんいるのでは意味がありません。K P I としては仕方がないと思いますが、平均値に拘泥することは他律的なK P I かと思いますので、天下の政令市として、しっかりと自分たちがどのようにしたいのかを、矜持をもってK P I として設定させていただきたいと思います。ただ、教育委員会が策定する計画では平均値を指標として設定しているかと思っておりますので、実施計画でも同じ指標と</p>

	<p>することは致し方ないと思いますので、指標の考え方として意見を申し上げました。</p>
政策企画課長	<p>1点目の事業とKPIの関係ですが、確かにタイムリーな話題としてギガスクール構想がありますので、適当な指標がないか、今一度チェックしたいと思います。</p> <p>2点目の自律的な目標値設定について、他にも相対的な評価を指標として設定しているものがありますので、これらを含めて、千葉市の現状を踏まえながら、自律的な指標を設定できないか検討してまいりたいと思います。ただ、委員からもありましたが、学力テストの関する指標は教育委員会において既に設定しようとしている指標ですので、どこまで対応できるかは分かりませんが、ご指摘いただいたとおり全体の底上げという考え方もありますので、所管課と調整してまいります。</p>
林委員	<p>文化芸術について、「千葉市美術館利用者数」が現在の14万3,000人から20万人に増やす指標となっています。色々な形で美術館とお仕事をしていますが、美術館の利用者数を増やすとなると、やはり一般的に広く知られている、例えばジブリといった分かりやすいコンテンツを展示する形になってしまい、その美術館でないとできないことと乖離してしまうと思います。美術関連の中では、千葉市美術館は面白いチャレンジをしている美術館として認知されていますので、どのように特色を出していくのかを考えたときに、単に右肩上がりの入場者数を目標とすることは再考してもよいと思います。例えば、教育など他の分野にも関係しますが、児童が鑑賞しやすい開催日を設定することや、千葉市に居住している外国人の方々が鑑賞しやすい機会をつくることなどが考えられると思います。また、最近、ナイトタイムエコノミーや朝の時間を活用する風潮もありますので、実験的に夜間の開館日を設けるなど、入場者数を増やすという形ではなく、誰に来てもらうのか、美術館でどのような時間を過ごしてもらうのか、美術館は何を提供できるのかといった、美術館の質を測るKPIを考えていくこともよいのではないかと思います。</p> <p>次に、芸術家の育成は3年間では難しいという中で、学校に行ったり、体験型のワークショップをしたりすることが指標としてありますが、大規模学校で何か公演すれば、アーティストが成長し、子どもたちの文化体験になるのかということ、考えた方がよいと思います。とりあえず多くの方が芸術体験をしたということではなく、どんな体験してもらうのかということについて、所管の方とも検討いただければと思います。</p>
政策企画課長	<p>美術館を入館者数のみで測ると、ご意見のとおり人の目を引くようなイベントだけをやればいいという話になりかねませんので、地域への定着など別の指標が考えられないか、検討してまいりたいと考えております。</p> <p>裾野を広げるような取組みの指標としましては、委員からありました施策6-1-1の「市立中学校における文化芸術実施公演の参加者数」や、「美術館における体験参加型事業の利用者数」といったものが質に関する指標というふうに考えております。そのため、適正に管理して、フォローしていきたいと考えております。</p>
浅野委員	<p>防災政策に携わっておりますので、そちらの分野について意見を述べさせていただきます。3ページの政策2-2「多様な主体の連携による防災力を高める」について、やはり地域活動を活性化させていくことは簡単ではありません。基本目標である「自主防災組織結成率」の目標値が65%と設定しておりますが、目標設定の考え方を見ますと、「現状の60%から大幅な上昇が見込めないため、直近ピークの数値を設定」とありますので、今後、どのように取り組んでいくのかの考が反映されていないかと思います。</p> <p>一方、「避難所運営委員会設置率」について、こちらは現状で99%設置されており、非常に評価すべきことだと思います。これは、千葉市が小学校、中学校、コミュニティセン</p>

	<p>ターなどの公的避難所を、市民参加により平常時から運営する組織の立ち上げに向けて住民と協議しながら何年もかけて取り組んできた結果だと思えます。さらに、避難所運営委員会の女性参加率を高めることにもずっと努力されており、全市平均で3割を超える成果を出していますが、これはおそらく日本でもトップクラスではないかと思えます。</p> <p>以上を踏まえて申し上げたいことは、地域防災力の向上を測るときに、千葉市が避難所運営委員会の設置に力を入れてきたことことは正解だと思えます。助け合い活動の質を上げるという意味で、女性参画を進めることが重要で、やはり男女共同参画が実現しないと本当の意味での助け合い活動の質を担保することは難しいと思えます。そのため、これまでの努力や成果を踏まえ、質の面から指標を設定することが考えられるかと思えます。例えば、避難所運営委員会の設置率は99%となっておりますので、質を高めるという意味で女性の参加率を3割から4割に引き上げていくことや、世代を含めて多様な参加を実現させていくような指標を設定することも考えられるのではないかと思いました。</p> <p>他にも防災関係で何かあると思えますので、気が付いた点があれば個別に意見提出をしたいと思えます。これまでの取組みの成果により頭打ちになっている部分については、今後どのように超えていくかという発想で、これまでの取組みや成果を踏まえて、指標を検討するとよいと思いました。</p>
政策企画課長	<p>自主防災組織結成率について、都市の特徴ではありますが、なかなか自治会の加入率が上がらず厳しい状況ということから、このような設定をさせていただいたところです。</p> <p>委員からお話がありましたように、避難所運営委員会は千葉市で努力してきた結果、100%に近づいてきたということですので、先ほどありました女性の参加率など、千葉市の施策として質的なものを設定できないか、所管課と調整してまいりたいと思えます。</p>
浅野委員	<p>追加で申し訳ありませんが、防災ライセンス講座も毎年多くの方が受講していますので、受講者の傾向などを踏まえ、これまで以上に受講者の幅を広げることなどもあるかと思えます。例えば、教育、文化やスポーツなど、他の分野の市民リーダーのような方々にも受講していただけるようにすることで、足腰の強い制度になっていくと思いました。</p>
若狭委員	<p>千葉市に居住し、自転車を主な移動手段として色々な場所を巡っている市民委員として、いくつかお伺いさせていただきます。分野7の基本目標「千葉市にアイデンティティあると思う人の割合」に関連して、先日の視察で色々な施設に連れて行っていただき、加曽利貝塚から競輪のTIPSTAR DOME CHIBAや稲毛海岸までといった場所が、意外と自転車で回れる近い距離にあるという事実が気が付きました。普段は点と点での移動となっており、駅から加曽利貝塚までといった形のため施設が点在しているという印象でしたが回ろうと思えば回れる距離だと思いました。シェアサイクルで乗り捨てできる場所も千葉市の魅力的な部分と感じています。このことを踏まえて、魅力あるまちづくりとは、やはり誰かに自慢したくなる、人を呼びたくなるという部分であると思えますので、色々なKPIを拝見して思ったことは、あまり市民にフレンドリーな印象がなかったというのが正直な感想です。例えば、多様な主体との連携は、ポジティブにアクションしている市民に対する施策だと思えますが、普段暮らしている市民に、情報がきちんと伝わっているのかという視点で、市民にフレンドリーに情報が伝わっているのを改善する施策がなかったのが気になりましたので、今後の考え方をお伺いさせていただきます。</p>
政策企画課長	<p>我々も視察で一緒に回った中で、確かにこのルートが良いと思った部分もありますので、自転車の活用に取り組んでいく中で、対応していくことも考えられると思えます。また、シェアサイクルのお話がありました。シェアサイクルは公共交通との相性がとても良く、</p>

	<p>自分の自転車では最後まで乗って帰らないといけません、片道や拠点間だけなどと使える部分がありますので、そのような取組みを進めていけるのではないかと思います。千葉市では自転車を活用したまちづくりを進めていく中で、自転車専用レーンを整備していますので、そのような取組みと一緒に指標として盛り込めないか検討したいと思います。</p> <p>また、いかに市民に取組みを伝えていくのかは、行政最大の悩みでもあります。伝え方が悪いせいもあると思いますが、市の取組みが伝わっていない、理解につながっていない部分があります。現在はプッシュ型のあなたが使えぬ制度お知らせサービスを実施しておりますが、まだまだな部分がありますので、デジタル化やそれに限らず全体に関わる部分での指標とするかという点ではありますが、市民に情報が伝わっているかをどのように測るかについて、検討してまいりたいと思います。</p>
総合政策部長	<p>フレンドリーな情報と都市アイデンティティに関連して補足させていただきます。</p> <p>課長が申し上げたとおり、情報発信に課題があることは理解しております。その中で、2026年に千葉が開府して900年という大きな節目を迎えることが、我々としては重要な機会であると思っております。千葉氏が開府して以降、ずっとまちが発展していった歴史を振り返りながら、さらに未来に向けて、まちをどうしていけばもっと良くなるのかということ、市民、団体、企業など様々な関係者とともに検討しており、来年度以降、盛り上げてまいりたいと考えております。このような部分を含め、より多くの市民に興味を持っていただけるような情報の充実を図ってまいりたいと思います。職員のデジタル活用も含め、様々な方法を組み合わせながら、取り組んでまいりたいと考えております。</p>
若狭委員	<p>追加で1点質問がございます。都市アイデンティティに関して、昨年、ウェブアンケートを12回実施しています。項目として4つの地域資源を挙げておりますが、今後、この4つから増えていく要素はあるのでしょうか。アンケートの結果を見ますと、それぞれ、「知っている」か「詳しく知っている」という割合が90%程度となっています。アンケート上、9割程度の市民が知っている状況の中で、千葉市にアイデンティティがあると思う人の割合が50%台ということは、もしかした地域資源として足りていない部分があるのか、もしくはずれている可能性があると思います。そのため、都市アイデンティティの認知度を増やすよりも、もう少しジャンプする要素があった方が、市民がアイデンティティとして魅力を感じてくれるのではないかと思います。</p> <p>視察で回りましたが、縄文時代の加曽利貝塚から海辺のグランピング、ドローンやAI活用が進んでいる幕張新都心まで車で30分ぐらいの距離でタイムワープしている感覚がありましたので、これは千葉市のアイデンティティではないかと個人的に思います。この辺りの考え方について、何かあれば教えてください。</p>
総合政策部長	<p>4つの地域資源につきまして、千葉市では昨年度にアイデンティティ戦略プランというものを改訂したところです。そのときに、地域資源をもっと広げるか議論しましたが、昨年度実施した別のアンケートでは、地域資源を認知していても、共感し、好きだと思える割合は下がっておりますので、まだ他の部分に手を出す段階ではないと考え、2026年までは4つの地域資源をしっかりとやっていくこととしております。</p> <p>委員からもありましたように、千葉市には様々な時代のものや様々な特性が色々な形がありますが、これらが必ずしも繋がっていない部分がありますので、基本計画の中で取り組んでいく課題として認識しております。</p>
根本委員	<p>分野8について、学生の立場から意見を述べさせていただきます。施策8-1-3、「アントレプレナーシップ教育に関するコンテンツ提供数」について、コンテンツである西千</p>

	<p>葉こども起業塾には、所属している研究室が主催しており、動物公園PR動画作成企画については、ボランティアとして参加させていただきました。学校では学べないことを学ぶことができ、西千葉こども起業塾では、実際に企業の方と子どもたちが交渉するなど、学校で学べないことを学んだ子どもたちは可能性に満ち溢れており、実際に子どもたちも、企画がすごく楽しかったからこれを将来につなげたいという感想を述べた子もいらっしゃいます。PR動画では、動画編集が楽しかったという感想があったほか、実際に動画編集に携わっている方も参加していることもあり、このような人との関わりが子どもたちの将来を広げるのではないかと思います。</p> <p>その一方で、参加した理由として、自分が参加したかったという子どももおりますが、保護者の意欲が高い方もかなりおりました。参加者が同じように企画を把握されている方に限定されているのかとも思いましたので、新しいコンテンツが2件追加とありますが、PRも充実していただくことで、さらにより企画になるのではないかと思います。</p>
政策企画課長	<p>こちらの事業は雇用の視点が入っておりますが、学校以外における教育の部分で地域を知ってもらおうという取組みが必要だと思いますので、こちらについても目標を設定し、実施してまいりたいと思います。</p> <p>学生も参加していただいていることは、地域の力を活かしているという意味でもすばらしい取組みだと思いますので、継続して取り組んでまいりたいと考えております。</p>
鈴木部会長	<p>この取組みのKPIは、本当は件数ではなく、参加した子どもたちが企業家になった人数などを測ることができればとても良いですが、難しいところかと思えます。</p>
細田委員	<p>2点ございます。</p> <p>1点目が、若者・子どもも含めて、自殺者が非常に増えております。特に、いじめは年々増える一方という中で、いじめに関する取組みは子ども・教育分野の施策に入ってくると思いますが、社会課題に関するものはしっかりと位置付けてある方が良いと思います。</p> <p>2点目は、既に他の委員からもありますように量だけでなく、質も重要であろうと感じております。質という意味では、精度としては低いかもしれませんが、毎回のアンケートの満足度など、そういった部分も含めて、単なる人数などの量だけではない指標があると、より良いのではないかと思います。</p>
政策企画課長	<p>まずは若者・子どもの自殺・いじめに関して、子ども・教育分野の「困難な状況にある子どもや家庭の支援の充実」という施策が、例えばニートや不登校といったものも含めています。現在は子ども若者総合相談センター、Linkというニートや不登校の子ども、引きこもりの相談などを受け付けている相談窓口の相談件数を設定しておりますが、より分かりやすい指標を設定できないか、所管課と調整したいと思います。</p> <p>次に量と質に関しまして、こちらを含めて相談件数を指標としているものが多くありますので、量だけでなく、さらに質の向上を測るものが指標として設定できないか、見直したいと思います。</p>
岩崎委員	<p>基本目標の設定について質問させていただきます。制度設計するとき、まずは千葉市の将来のあるべき将来像を設定し、基本目標、そしてそれに対する適切なKPIを設定し、その妥当性を議論するという順番になると思いますが、資料3-2にある基本目標よりは資料2の分野ごとにある目標の方が基本目標に近いニュアンスがあり、この辺りが混乱を招いている感じがしますので、整理した方がよいと思います。</p> <p>まずは先ほど質問させていただいたように、戦略的視点と事業について、タクソノミーと言いますが、分類して整理するという作業と、それから資料2の分野別の主な事業、政</p>

	<p>策名は資料3-2と共通ですが、資料2に記載されている政策項目が基本目標と異なるため政策と基本目標の関係性とKPIとの整合性がとれるよう整理していただけるとよいと思います。</p> <p>その上での意見ですが、戦略的視点の5「まちづくりを進める力」がとても良いと思っております。地域活動やボランティアによる支え合いの活性化に向けた新たなプラットフォームの構築と書かれていますが、これが分野目標になると「多様性を力にみんなでまちづくりを進める地域社会を実現します」となっております。本来であれば、この戦略的視点を遂行するためには、信頼性のある地域ネットワークを構築することが必要で、そのために生涯学習が必要となり、公民館や生涯学習センターの受講生数や講座数をKPIとして設定するというストーリーになるかと思えます。しかし、戦略的視点と事業と基本目標とKPIが繋がっておらず、ストーリー性が見られませんので、基本目標について丁寧に議論してから、KPIを考えた方がよいと思います。</p>
<p>総合政策部長</p>	<p>最初に基本目標という言葉についてです。基本計画において、8つある分野の目標として分野目標を位置付けております。一方、基本目標とKPIについては、国の総合戦略で定めている指標の名称ですので、ご指摘のとおり分かりにくい部分がありますが、決められている名称となります。そのため、最終的に計画書を作成する中で、基本目標とは何かという部分を丁寧に説明していくことで、対応とさせていただければと思います。</p> <p>また、分野目標の書きぶりや指標の基本目標のずれについては、先ほどの分野5を例に説明しますと、分野5の地域社会の中に2つの政策があります。政策1が、多様性に関するもの、性的役割分担や多文化共生といった施策がございます。政策2では、多様な主体の連携によるまちづくりとして、地域のプラットフォームなど、いわゆる地域のまちづくりを活性化していくような取り組みや、公民館を含めた生涯学習といった部分を位置付けております。これらの政策ごとの成果を測る指標として、基本目標を設定しているところとなりますので、そのレベル感が違っております。分野目標に設定しているものではなく、政策に対して設定しているものということをご理解いただいた上で、政策が非常に定性的な理念的な表現になっていることに対して、具体的な数値の取れる指標を設定しているということで、ここもややジャンプしている部分がございますのは、事実かと思っております。</p> <p>ただし、ここを解決するためには、アンケートを取るしかないのであります。既に今、政策評価として市民1万人からアンケートを回収し、市民の実感を聞いております。この部分については我々も悩んだところですが、アンケート結果は、市の施策だけでなく、時事的なものも含めた外部要因の影響を多分に受ける面があります。そのため、施策の効果が順を追って出てくるようなものなのかという議論が、これまでの政策評価部会にてございました。また、来年度に、新しい基本計画に基づく政策評価制度をこちらの審議会でご議論をお願いしたいと考えており、この計画書の中でアンケートを固めてしまうと、今後の変更が難しくなってしまいます。そのため、可能な限り定量的な指標で構成しようと考え、作成してきたということが実情です。</p> <p>そのため、完全にぴったりとはまっているわけではありませんが、我々としてはこうした状況の中で、可能な限り改善を図りたいと思えます。</p>
<p>菊地委員</p>	<p>KPIの目標値については、一般的には過年度のトレンドをベースに設定しているかと思いますが、昨年、一昨年はご承知のとおり稀有な時代でしたので、目標値設定の考え方が非常に難しいということが良く分かります。</p> <p>今回、資料3-2を拝見して感じたことは、指標の出典として他の個別部門計画の指標</p>

を引用している場合と、所管課が独自で集計したものと大きく2パターンございます。

前者の指標については、本計画が総合計画である以上、個別部門との整合を図るうえで当然かと思いますが、このような指標の数値は各個別部門計画を策定される中で十分な議論をしたうえで設定されている数値かと思いますが、我々の議論を反映させることが中々難しいのではないかという印象を持っております。

一方、所管課集計の指標については、おそらく今後、政策企画課が調整をする中で、我々の意見を反映できる部分があるのではないかと思います。そのような中で、例えば、安全・安心分野の「消防団員の充足率」に関して、機能別消防団員制度の導入などは、おそらく今回の実施計画の一つの、大きな事業になっていると思います。こういった事業について、K P I の変化の弾性値を測るような目標値を設定するとよいのではないのでしょうか。

例えば、モデル的に一部の区で実施するような事業について、実施した区としない区の変化を把握することで、事業の効果をK P I の変化として把握することができると思います。そうしますと、次の実施計画では目標値が相当変わっていくと思いますが、目標値を設定する際の根拠を作るような位置付けとして、弾性値を測る指標を設定してもよいのではないかと思います。第3次まで続く最初の実施計画であるからこそ、事業量とK P I の変化の弾性値を測る試みができると思いますので、柔軟にご検討いただければと思います。

議題（４）その他

（事務局）第1次実施計画の策定スケジュール及び議事録の確定方法について、事務局より説明した。

—閉会—